

2

Rd.

MAY 2015

平成27年5月30日発行
第6巻87号

RACING PRESS

apan

**SUPER GT ROUND2
FUJI**



tetsu

Super GT
Series 2015

GT

Round 2
FUJI

5/2-3



Nakamura

悪天候に悩まされた開幕戦岡山とは違って
変わった空模様となった富士は晴天に恵まれ
予選からGT500は最高速300km/hを超える
ハイスピードバトルとなって展開された。一方
GT300はJAF GT車両とFIA GT車両が激しい
バトルを繰り広げる事となった。

Text

島村元子

Editor

吉川絹恵

Photo

鉄谷康博

中村佳史

近江 勳

宮田勝通

Cover Photo

近江 勳

第2戦富士は、最高速が300km/hを超えるハイスピードバトル。

開幕戦からほぼ1ヶ月、SUPER GT 第2戦が富士スピードウェイで開催された。5月2-3日のレースウィークは五月晴れの好天気に恵まれ、サーキットはつねに青空が一面に広がった。そんな中、つねに安定した速さ、そして強さを見せつけたNo.1 MOTUL AUTECH GT-R(松田次生/ロニー・クインタレッリ組)がレースでも他を寄せ付けぬ勢いで完勝を果たしている。

第2戦の富士は500kmと、通常レースに対しおよそ1.7倍の長距離戦。2度のピットインが義務付けられ、スタンダードな戦略であれば都度補給をタイヤ交換を併せて行うことになる。また、ストレートが長く、高速サーキットである富士では、専用のローダウンフォース仕様の空力パーツを装着するなど、スペシャルな面が多い。それだけに、まず予選で好位置につけて決勝の戦いに挑みたい。そんな思いがぶつかり合うタイムアタックで最速タイムをマークしたのが、No.1 MOTUL AUTECH GT-Rのクインタレッリだった。朝の公式練習でもトップタイムをマーク、Q1を僚友の松田がトップで突破すると、さらに勢いにのったクインタレッリはコースレコード更新となる1分27秒552を叩き出してライバルを一蹴。2番手に続いたNo.12 カルソニック IMPUL GT-R(安田裕信/ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ)に0.325秒もの差をつけた。



MOTUL AUTECH GT-Rがパーフェクト・ウィン!

日曜日も雪化粧した富士山が見守る中、爽やかなコンディションとなった富士には、大型連休の真っ只中ということもあり、およそ5万8千人という多くの観客が詰めかけた。午後2時15分、110Lにわたる戦いがスタート。上位陣はクリアスタートを切ったが、後方では追突事故も発生。さらにGT300が周回遅れになるとクラスの異なる車両同士の接触も続き、落ち着かない展開となる。また、タイヤバーストによるコース上へのオイル漏れでは、セーフティカーが出勤。ここでも再スタートの際に接触が見られ、ポジションの変動が見られることになった。



FUJI SPEEDWAY

大相撲力士 大砂嵐関が
チェックフラッグを振る。



GT500



表彰台を巡る激しい攻防戦。 勝者はGAINER TANAX GT-R!

GT300



そんな中にありながら、トップの1号車はつねに安定した速さでレースを牽引。2番手スタートの12号車も負けじと逆転の機会を作っては何度もトライしたが、決定打には恵まれず。次元の高いレース運びで他を圧倒する優勝を遂げている。2位の12号車に続いたのは、予選4位のNo.36 PETRONAS TOM'S RC F(伊藤大輔/ジェームス・ロシター組)。終盤のピットイン時にソフト系タイヤを選択し、猛追を試みたが時すでに遅し。3位表彰台獲得が精いっぱいだった。

GT500 決勝結果

1位	No.1	MOTUL AUTECH GT-R	松田次生/R.クインタレッリ	110周
2位	No.12	カルソニック IMPUL GT-R	安田裕信/J.P.デ・オリベイラ	110周
3位	No.36	PETRONAS TOM'S RC F	伊藤大輔/J.ロシター	110周
4位	No.17	KEIHIN NSX CONCEPT-GT	塚越広大/武藤英紀	110周
5位	No.39	DENSO KOBELCO SARD RC F	平手晃平/H.コバライネン	109周
6位	No.37	KeePer TOM'S RC F	A.カルダレッリ/平川亮	109周
7位	No.19	WedsSport ADVAN RC F	脇阪寿一/関口雄飛	109周
8位	No.15	ドラゴ モデューロ NSX CONCEPT-GT	小暮卓史/O.ターベイ	109周
9位	No.6	ENEOS SUSTINA RC F	大嶋和也/国本雄資	108周
10位	No.46	S Road MOLA GT-R	本山 哲/柳田真孝	108周
11位	No.24	D'station ADVAN GT-R	佐々木大樹/L.オールドネス	108周
12位	No.64	Epson NSX CONCEPT-GT	中嶋大祐/B.バゲット	107周
13位	No.8	ARTA NSX CONCEPT-GT	松浦孝亮/野尻智紀	95周
	No.100	RAYBRIG NSX CONCEPT-GT	山本尚貴/伊沢拓也	29周
	No.38	ZENT CERUMO RC F	立川祐路/石浦宏明	25周



前回のクラスウィナー、No.31 TOYOTA PRIUS apr GT(佐々木孝太/中山雄一/嵯峨宏紀組)はそのハンディとして今回40kgのウェイトを搭載。しかし練習走行時から constants に速いタイムを刻み、ライバルたちの戦意を削いでみせた。しかし、決勝ともなるとやや勢力図に変化が現れる。31号車にNo.3 B-MAX NDDP GT-R(星野一樹/高星明誠組)が食らい付いたほか、予選3位のNo.10 GAINER TANAX GT-R(アンドレクート/千代勝正/富田竜一郎組)やその僚友であるNo.11 GAINER TANAX SLS(平中克幸/ピョンビルドハイム組)らが絡み、表彰台を巡る攻防戦が始まった。



2nd



3rd

WINNER



tetsu



2nd

Nakamura



3rd

Nakamura

一時は淡々と逃げていた31号車も次第にバトルに巻き込まれるハメに。その中で一番の勢いを見せたのが、10号車のGT-R。予選3位から安定した速さを武器に後半を迎える頃にはクラストップの座を奪取。瞬間に後続との差を広げてしまった。これを機に激戦は2位争いへと移行。その中の一台、3号車のGT-Rは途中不運なタイヤパンクチャーでポジションを落としたが、終盤に怒濤の追い上げ。悔しさを速さに置き換える驚異の走りでも10号車に次ぐ、2位をもぎとっている。3位には11号車のSLSが続き、開幕戦岡山でのリベンジを達成。逆に31号車は4位の結果でレースを終えている。



GT300 決勝結果

1位	No.10	GAINER TANAX GT-R A.クート/千代正勝/富田竜一郎	100周
2位	No.3	B-MAX NDDP GT-R 星野一樹/高星明誠	100周
3位	No.11	GAINER TANAX SLS 平中克幸/B.ビルドハイム	100周
4位	No.1	TOYOTA PRIUS apr GT 佐々木孝太/中山雄一/嵯峨宏紀	100周
5位	No.0	グッドスマイル 初音ミク SLS 谷口信輝/片岡龍也	99周
6位	No.7	Studie BMW Z4 J.ミューラー/荒 聖治	99周
7位	No.65	LEON SLS 黒澤治樹/蒲生尚弥	99周
8位	No.61	SUBARU BRZ R&D SPORT 井口卓人/山内英輝	99周
9位	No.51	JMS LMcorsa Z4 新田守男/脇阪薫一	99周
10位	No.86	Racing Tech Audi R8 C.マメロウ/細川慎弥/黒田吉隆	98周
11位	No.50	SKT EXE SLS 加納政樹/N.I.バユーン/安岡秀徒	98周
12位	No.33	Excellence Porsche A.インペラトリ/山下健太	98周
13位	No.77	ケースフロンティア Direction 458 横溝直輝/峰尾恭輔/飯田太陽	97周
14位	No.111	Rn-SPORTS GAINER SLS 植田正幸/鶴田和弥/池上 真	93周
15位	No.360	RUNUP Group&DOES GT-R 吉田広樹/田中篤成/成澤正人	81周
16位	No.30	NetMove GT-R 小泉洋史/岩崎祐貴/影山正美	80周
17位	No.55	ARTA CR- GT 高木真一/林 崇志	75周
18位	No.48	DIJON Racing GT-R 高森博士/田中勝輝/柴田優作	72周
No.18	UPGARAGE BANDO H 86 中山友貴/M.アスマー/井出有治	66周	
No.60	SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 飯田 章/吉本大樹	61周	
No.9	PACIFICマクラーレンwith μ's 白坂卓也/東徹次郎/山脇大輔	47周	
No.21	Audi R8 LMS ultra R.ライアン/藤井誠暢/S.オルテリ	46周	
No.25	VivaC 86 MC 土屋武士/松井孝允	44周	
No.5	マツハ車検 with いらこん 86c-west 玉中哲二/密山祥吾/山下潤一郎	17周	
No.88	マネバ ランボルギーニ GT3 織戸 学/平峰一貴/佐藤公哉	8周	
No.2	シンティアム・アップル・ロータス 高橋一穂/加藤寛規	4周	
No.87	クリスタルクロコ ランボルギーニ GT3 青木孝行/山西康司		

*Special
Eye*



Photo by : Tsutomu Omi

Special Thanks

Special Eye



Special Thanks

Photo by : Katsumichi Miyata